自由を我等に（1931）

A NOUS LA LIBERTE

メディア 映画
ジャンル コメディ　ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 86分
初公開日 1932/05
公開情報 東和
映倫 G

【解説】

チャップリンの信奉者を自認するクレールが、遂に喜劇王の「モダン・タイムス」に影響を与えたとされる、その諷刺と男同士の友情話、サイレント的ギャグ、そしてG・オーリックの楽しい音楽が渾然一体となった、オペレッタ的コメディの快作。

刑務所内の作業場。囚人ルイとエミールはそこで眼で合図を交わし合う。夜、同房の二人は題名曲“自由を我等に”を小声で口ずさみ脱獄を図る。塀を越えようとして発見されたエミール。お前だけ逃げろ、とルイに叫ぶ。ルイは要領のいい男で、露店のレコード売りからとんとん拍子に出世して、大蓄音機会社の社長となる。エミールもようやく放免。だのに、のんびりと原っぱに寝転がっていると、巡査がやってきて、“働くことが自由なのだ”（その言葉から教室の授業風景が映り子供たちが同じ文句を唄うギャグは傑作）とお説教された上、留置所に放り込まれた。窓の外から美しい女声が届いて、絶望に首を吊ろうとするエミール。ところが、紐をかけた鉄格子が抜け、なんなく逃亡に成功。やがて彼は美声の主ジャンヌも働くルイの工場の工員となり、ジャンヌを追って逆に監督に追いかけられたところをルイとばったり。彼はてっきりエミールがたかりに来たかと、まずピストルで次に札束で迎えるが、きょとんとして応じない。そこへ工員たちの靴音……。刑務所生活を想起して友情が浮かび上がり、再びあの歌を共に唄う。

さて、ルイを間に立てジャンヌに求婚したエミールはふられ、ルイの妻も不貞を働き、また彼は昔の仲間からゆすられる身。だから、工場増築の祝典に刑事の姿を見たとき、彼らは再び二人して逃げる。金を詰めた鞄は風に散った（予想通りの混乱が起こる）が、かまうものか。そして、ルンペンに落ちぶれた二人は田舎道を往く。すれ違う高級車を懐かしげに振り返るルイの尻を蹴るエミール。前を向いて歩く彼らの後ろ姿が、チャップリンを思わすように遠ざかる。明るい歌声とともに……。

【クレジット】

監督	ルネ・クレール	Rene Clair
製作	フランク・クリフォード	
脚本	ルネ・クレール	Rene Clair
台詞	ルネ・クレール	Rene Clair
撮影	ジョルジュ・ペリナール	Georges Perinal
音楽	ジョルジュ・オーリック	Georges Auric
出演	アンリ・マルシャン	
	レイモン・コルディ	Raymond Cordy
	ポール・オリヴィエ・ロラ・フランス	
	ジャック・シェリー	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.